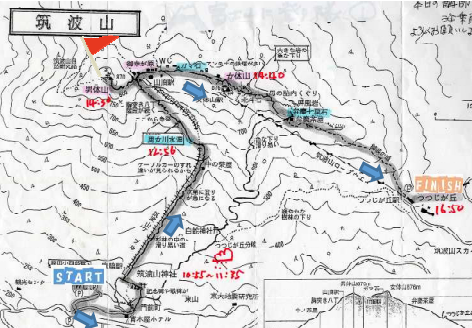


山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
43	浅間山 (黒班山、鋸岳)	31/100	2,568
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1999.5.23 平成11年		53	
メンバー	5/22軽井沢サイクリング⇒信濃追分ペンション「グラスホッパー」2泊		
単独	複数	ガイド	ツアー
			5/24TAXIで軽井沢保養所、松本東急イン泊、5/25松本村井⇒京都
コースタイム	車坂峠10:24⇒頂上⇒Jバンド、浅間山荘⇒15:40浅間橋 ＜歩程5:16 標高差1,082m＞		
交通手段	往路:5/22JR東京⇒軽井沢、サイクリング 現地:5/23JRで信濃追分～小諸～バス往復 5/24TAXIで軽井沢改装現場、JR追分⇒松本		
<p>火山活動で登山禁止中のため、164m低い代替の黒班山となったままだ。しかしお陰で浅間の優美な全容を間近に眺めスケッチもできた。更に27年前の「浅間山荘」事件現場を通るコースまで足を延ばせた。</p> <p>何と山荘は未だ撤去されず廃墟となっていた。当日は松本の東急インの7階に泊まったが、翌朝窓から手前の山の向うに槍の頂上がちょこっと見えて、それが朝日に眩しいくらいに輝いていた！下階だったら隠れて気付いただろう。嬉しい発見だった。会社の保養所の設計をして軽井沢の現場には何度も来たが、叶わなかった登山とサイクリングを今回は改装工事ついでに実現ができた。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
44	筑波山 (筑波岳、嶺)	95/100	876
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2012.3.24 平成24年		66	
メンバー	主催	3/22静岡、小山原神君宅泊。	
単独	複数	ガイド	ツアー
			人数 リーダー 3/22東京ID 3/24府中泊。 3/25熱海経由で帰宅。
コースタイム	10:35駐車場⇒14:30男体山⇒女体山⇒16:50つじが丘＜歩程6:15 4.8km 標高差635m＞		
交通手段	往路:3/22.23	現地:立川駅前集合解散のバス	復路:3/25JR,
<p>関東平野にポツンと置かれたような筑波山、どうしてか女体山の方が男体山より16m高い。標高が1,000mを切る百名山は筑波山と開間岳だが、筑波山の方が46m低い。しかし草津白根山の標高差155mには635mで勝っている。高さだけでも個性が有る山なのだ。ガマ石、大仏岩他の奇岩が多くて楽しい。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
45	白馬岳	16/100	2,932
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1995.8.12 平成7年		49	8/11大池山荘8/12白馬山荘8/13鍵ヶ岳小屋
メンバー	8/10夜行バスで白馬へ。8/11柵池自然園で脚馴らし、大池山荘泊。		
単独	複数	彰と	縦走登頂
			8/12小蓮華岳 8/13杓子岳、鍵ヶ岳
コースタイム	8/11 10:30柵池自然園12:30、13:20⇒16:30大池 8/12 6:25⇒12:35白馬岳山頂14:05⇒白馬山荘 8/13 7:00⇒12:35鍵ヶ岳山頂10:45⇒鍵温泉小屋 8/14 6:30⇒9:40猿倉、TAXI⇒白馬、松本、名古屋、		
<p>息子彰(16歳)と初めての小屋泊まりの縦走登山。柵池自然園は足馴らしだったが夜行バスの疲れが出た。彰は軽快な足取りで先を行き、白馬大池手前で「知らないおじさんにお父さんを待ってあげなさいって言われた」そうだ。ガスの向うに大池山荘が見えてホッとした。</p> <p>その後は好天の下360度のパノラマを楽しみながらの順調な稜線歩きだった静かな湖畔の大池山荘、街のレストランのような白馬山荘、神秘的な夕陽に染まりながらの鍵温泉の入浴など3つの小屋をつないでの縦走は親子の忘れられない経験となった。家内が言うには「お父さん孝行でついて行ってくれたのよ」だそうだがそれはそれで嬉しい話だ。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
46	五竜岳	44/100	2,814
登頂年月日		山頂天候	年齢
2000.8.16 平成20年			62
山中宿泊小屋		8/14唐松岳頂上山荘 8/15五竜山荘	
メンバー		8/12小川山で安村氏のクライミングレッスン、テント泊 8/13松本泊	
単独	複数	ガイド	ツアー
同時登頂百名山		別々登頂 縦走登頂	鹿島槍ヶ岳へ
コース タイム	8/14 第一ケルン9:50⇒15:003点確保、垂直下降など 8/15 唐松岳往復、山荘7:10⇒11:00五竜山荘		
交通手段	往路:8/12講師の安村氏の送迎 8/13JR	現地:JR、バス、ゴンドラ、リフト	復路:
<p>8/12は八峰キレット通過に備え、小川山の岩場で安村淳、マリ夫妻にのクライミングレッスンを5名が受けた。その日は廻り目平でテント泊。後日指先の皮が剥けた。</p> <p>8/14朝松本を出発、ゴンドラとリフト2本を乗り継いで八方第一ケルンに登り、いよいよ後立山連峰縦走の開始。早めに最初の宿「唐松岳頂上山荘」に着いた。8/15朝食前に唐松岳を往復、ガスで景色は見えなかった。午前中に五竜山荘に入ってゆっくり過した。8/16早朝5時には五竜岳山頂に立った。日の出と素晴らしい雲海をながめて小屋に戻り朝食を済ませてから出発した。</p>			

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
47	鹿島槍ヶ岳	45/100	2,890
登頂年月日		山頂天候	年齢
2000.8.16 平成20年			62
山中宿泊小屋		8/16冷池小屋 (スタッフが美人揃い)	
メンバー		8/17扇沢にヘトヘトで下山、山、直帰	
単独	複数	ガイド	ツアー
同時登頂百名山		別々登頂 縦走登頂	五竜岳より
コース タイム	8/16五竜岳往復、山荘6:00⇒八峰キレット⇒ 鹿島槍ヶ岳⇒16:30冷池小屋 8/17爺ヶ岳⇒16:30扇沢		
交通手段	往路:	現地:8/17扇沢からバス信濃大町	復路:8/17JR
<p>8/16五竜山荘を出てから12時間の強行軍、しかも途中で最大の難所、八峰キレットが待ち受けている。昼前キレット小屋で昼食。小屋を出ると間もなくキレットに到着。前後には人影は無い。流行る気持ちと孤独感が交錯した。切れ落ちた足下、冷たい岩肌をしっかりホールドして慎重に3点支持で通過した。続く双耳峰の鹿島槍南峰をヘトヘトになって通過し冷池小屋にたどり着いた。出迎えてくれたのは極上の生麦酒だけではない、3人の場違いな美人だ、それも客ではなくスタッフだった。元気を貰って翌8/17、爺ヶ岳を越えて扇沢に下った。</p>			

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
48	剣岳	5/100	2,999
登頂年月日		山頂天候	年齢
1972.8.14 昭和47年			26
山中宿泊小屋		8/12~14剣沢にテント設営、2泊	
メンバー			
単独	複数	ガイド	ツアー
橋本君と			
コース タイム	8/12 5:40美女平⇒7:45室堂9:00⇒12:00剣御前小屋 13:00⇒13:30剣沢野営場、テント設営 8/13 天候不順で停滞。午後別山の稜線まで往復 8/14 7:30⇒10:30剣岳山頂11:05⇒14:00剣沢野営場 8/15 7:10⇒剣御前、雷鳥沢、室堂⇒扇沢、13:20大町		
<p>テント、食糧、食器、液体燃料など装備がまだまだ軽量化されていない時代、30キロ越すキスリングを背負っての登山。剣沢野営場にベースキャンプを設営。強風で裾を重石で抑えても飛ばされそうな小さいテントだが中は別天地、歌ったり食べたりして過した。翌日も悪天候でピバーク。3日目は風も弱まりいよいよ剣にアタック。岩場の知識、技術、経験どれも危うい同士が百名山で難度3位の山に怖さ知らずの危険な挑戦だったが、カニの横ばいも無事通過して頂上を踏みキャンプに帰還した。同僚の橋本君とはその後御嶽山など国内の山や、スイスアルプスにも行った。</p>			